

平成18年度
21世紀土地改良区創造運動
北海道大賞

受賞地区の概要

～新たな水土里ネットの創造～

- 道民・国民が期待する農業・農村の多面的機能の発揮を支える組織
 - 道民・国民の要請に対応した農地・農業用水等の地域資源の維持保全を積極的に担っていける組織
- を目指して



平成18年8月29日

水土里ネット北海道
北海道土地改良事業団体連合会

はじめに

平成13年度にはじまった21世紀土地改良区創造運動（以下「21創造運動」）は今年度で6年目に入り、全道的な広がりが見られるようになりました。

平成14年度には土地改良区の愛称「水土里ネット」が決定し、以降、この愛称の普及を含めた多様な運動が全国的に展開されております。

また、平成15年度には、全国水土里ネットにおいて、全国の模範となる優れた運動や示唆に富む運動を展開している水土里ネットを表彰する「21創造運動大賞」が創設されました。

このような中で、本会は、21創造運動を一層推進する支援体制の強化を図るため、「21創造運動表彰選考委員会」を設け、平成16年度から「21創造運動北海道大賞」を選考しております。

現在、道内82水土里ネットの21創造運動の取り組みは多岐にわたっており、それぞれの地域の特性に応じた様々な活動が展開されております。

本年度の表彰選考委員会における北海道大賞の選考過程では、これらの活動について、都市と農村との交流や地域住民等と連携した地域づくり、学校教育との連携、先駆的な農業・農村振興活動、多様な広報の推進等が積極的に行われており、その運動の取組体制、意味性、継続性・発展性、連携性が選考のポイントとなりました。

21創造運動は、水土里ネットの役割・機能を再認識するなど自己確認、自己変革に取り組む（内部運動）とともに、農業・農村の多面的機能や農地・農業用水等の資源保全の重要性と水土里ネットの果たす役割などについて広く理解の醸成を図る（外部運動）ものであります。今後とも水土里ネットが、道民・国民が期待する農業・農村の多面的機能の発揮を支える組織、また、農地・農業用水等の地域資源の維持保全を積極的に担っていける組織として発展するためには、これからも着実に継続して21創造運動に取り組んでいかなければなりません。

本会といたしましては、この表彰を通じ、関係者間の情報交換や道民・国民への広報の展開につなげ、さらなる運動の推進と新たな展開が図られるよう支援して参りたいと考えております。

水土里ネット北海道

北海道土地改良事業団体連合会 会長理事

21創造運動推進委員会 委員長

小澤仁良

目 次

I.	21創造運動北海道表彰について 1
	1. 21創造運動表彰の目的	
	2. 21創造運動表彰の選考経過等	
II.	21創造運動北海道大賞地区の概要	
	1. 水土里ネット 当 別 (当別土地改良区) 3
	(石狩管内)	
	2. 水土里ネット 由 仁 (由仁土地改良区) 5
	(空知管内)	
	3. 水土里ネット 深 川 (深川土地改良区) 7
	(空知管内)	
	4. 水土里ネット てしおがわ (てしおがわ土地改良区) 10
	(上川管内)	

I 21創造運動北海道表彰について

1. 21創造運動表彰の趣旨

「水」「土」「里」は食料の安定供給や農業・農村の多面的機能の発揮の基盤となる社会共通資本。道民・国民の財産であるこの「水」「土」「里」を良好な状態で次世代へ継承するため、水土里ネットでは、農業・農村の多面的機能の発揮を支える組織、農地・農業用水等の地域資源の維持保全を積極的に担っていける組織を目指して、21創造運動を積極的に展開している。

このような中で、模範となる運動を展開している水土里ネットの表彰を通じ、活動に取り組む関係者間の情報交換や道民・国民への広報の展開につなげることにより、水土里ネット関係者の運動への取り組み意欲の高揚と意識改革を図るとともに、運動のさらなる発展と新たな展開に資する。

2. 21創造運動表彰の選考経過等

(1) 選考対象

21創造運動に積極的に取り組み、北海道の模範となる運動を行うか、又は、他の運動に対して示唆を与える運動を行っている水土里ネット。

(2) 選考方法

本会「21創造運動表彰選考委員会」が、道内82水土里ネットの取組状況を精査し、北海道大賞を選定する。

(3) 「21創造運動表彰選考委員会」委員の構成

委員長	梅田 安治	農村空間研究所長、北海道大学名誉教授
副委員長	浜田 哲	美瑛町長
委員	長澤 徹明	北海道大学大学院農学研究院教授
//	森 久美子	作家、エッセイスト
//	小田 たず子	消費生活コンサルタント
//	野城 正功	農政ジャーナリスト
//	菅原 聰	北海道開発局農業水産部調整官
//	山崎 照夫	北海道農政部農村振興局長

(4) 選考基準

水土里ネットが取り組む21創造運動において、愛称の普及、都市と農村との交流、地域住民等と連携した地域づくり、総合学習など学校教育と連携した活動、先駆的な農業・農村振興活動、環境・景観保全活動、多様な広報の推進等が積極的に行われており、その運動の取組体制、意味性、継続性・発展性、連携性において優れた活動が行われていること。

1) 運動の取組体制

- ①役職員とともに、運動を積極的に推進する意志と姿勢を有しているか。
- ②組織が一丸となって運動に取り組んでいるか。
- ③組合員の運動に対する理解が浸透しつつあるか。

2) 運動の意味性

- ①明確な基本理念を持って取り組んでいるか。

- ②運動の理念が、地域住民等に明確に伝わるような取り組みを行っているか。
- ③歴史や先人等の想いが伝わる運動となっているか。
- ④地域農業の振興・発展に向け、地域の要請に対応した新たな役割の発揮に取り組んでいるか。

3) 運動の継続性・発展性

- ①単発的な活動に終わるのではなく、持続的な（無理のない）運動として展開されているか。
- ②運動内容が徐々に発展・拡大しているか（「一步の踏み出し」）。
- ③運動が計画性（運動目標）を持って行なわれているか。
- ④運動の成果が現れているか（当該水土里ネットの体力に応じた相当の結果が現れているか）。

4) 運動の連携性

- ①他の組織との多様かつ有機的な連携のもとに、外部にも開かれた運動が展開されているか。
- ②多様なツールを活用しつつ運動のPRを積極的に行っているか。

（5）選考経過

1) 第1回委員会

- 期　　日　　平成18年6月9日
- 選考内容
 - ・21創造運動北海道表彰の実施方針について審議。
 - ・21創造運動北海道表彰の選考基準等について審議。
 - ・道内全82水土里ネットの運動の活動内容について、①愛称普及②都市と農村の交流③関係団体・地域住民等との連携④学校教育との連携⑤先駆的な農業・農村振興活動⑥環境・景観保全活動⑦多様な広報等一の7項目に分類し、それぞれの項目に積極的に取り組んでいる13水土里ネット（過去に全国大賞を受賞した3水土里ネットを除く）を表彰候補として一次選考した。

2) 第2回委員会

- 期　　日　　平成18年7月5日
- 選考内容　【北海道大賞の選考】
 - ・第1回選考委員会の一次選考で選んだ13水土里ネットのうち過去に北海大賞を受賞した5水土里ネットを除く8水土里ネットの活動について、選考基準である①運動の取組体制②運動の意味性③運動の継続性・発展性④運動の連携性一について整理・検討し、特に優れた活動を展開している4水土里ネット（当別、由仁、深川、てしおがわ）を北海道大賞に選定した。
 - 【全国大賞推薦の選考】
 - ・過去に北海道大賞を受賞した5水土里ネットと、今年度北海道大賞に選定した4水土里ネットの、計9水土里ネットの活動について、上記選考基準をもとに検討し、特に優れた活動を展開している水土里ネット北見を全国大賞中央選考委員会（全国水土里ネット）へ推薦することとした。

II 21創造運動北海道大賞地区の概要

1. 水土里ネット当別（当別土地改良区）

(1) 水土里ネットの概要

- ②地区面積 2,964ha
③組合員数 515戸
④関係市町村 当別町
①役職員等数 総代51名、役員16、職員15名

(2) 21創造運動の概要と受賞ポイント

組合員等の積極的な参加を呼びかけて、農業・農村の多面的機能発揮や地域資源の保全活動などに向けての意見交換を行うなど、内部運動として組合員等の取組意欲の向上と意識改革に積極的に取り組んでいるほか、地域住民やNPO法人等と連携した多様な地域づくりを展開し、地域農業・農村の振興発展に向け、地域の要請に対応した新たな役割の発揮に取り組んでいる。

地域資源の保全に向けては、水土里ネットが中心となり、組合員や地域住民など多様な参画を呼びかけてモデル的な活動組織を立ち上げ、効果の高い保全活動の取り組みを検証している。

また、学校教育との連携では、施設見学会の実施や、農業・農村の多面的機能などを紹介したハンドブック（副読本）を作成して町内の小学校に配布するなど、積極的な交流を通じて農業・農村の理解促進を図っている。

このように、地域が期待する農業・農村の多面的機能の発揮を支える組織を目指し、組合員はもとより地域住民や学校、NPO、行政など多様かつ有機的な連携のもとで、外部にも開かれた継続的、持続的な運動が展開されている。

(3) 21創造運動の主な取組

①都市と農村の交流

◇地域イベントへの参加

関係機関や町やJAなどが主催するイベントに積極的に参加し、パネルで農業用水の多面的機能、農地・農業用水等の資源保全の重要性などを紹介するほか、パンフレット、ハンドブック、ティッシュなどを配布し、水土里ネットの役割などをPRしている。（平成17年度は、JR札幌駅南口広場で2回、当別町内で1回）

JR札幌駅南口広場（上段）と、
当別町内でのイベント



②関係団体・地域住民等との連携

◇地域資源保全活動の積極的な推進

農地・農業用水等の地域資源の保全に向けて、水土里ネットが中心となり、農業者や地域住民など多様な参画を呼びかけてモデル的な活動組織を立ち上げ、効果の高い保全活動の取り組みを検証している。



◇用排水路沿いの花壇整備、短歌の掲示（地域住民、短歌の会との連携）

町内会など地域住民の協力を得て、用水路沿い等に花壇を整備しているほか、町内の2つの短歌の会から「農業・農村」にまつわる短歌を募集し、幹線用水路沿いに掲示している。



◇田園ウォーキングの開催（NPOとの連携）

「みくまりの郷・再発見～フレールドワーク」と題して、農業施設周辺の自然環境や景観などの良さを再発見してもらおうと、NPO法人と連携してウォーキングを夏と秋の2



回開催。3から5人でグループを作って幹線用水路沿いを10km歩き、「当別ならでは」「人に伝えたい」などの風景を写真に撮り、「再発見マップ」を作りながら地域の良さを話し合った。



③学校教育との連携

◇小学校の社会科見学に協力

当別小学校3年生の社会科見学に協力し、子供たちを青山ダムに案内。水土里ネットが作成したハンドブック「当別町の水を知ろう」や「水と歴史探訪」などを配布して、施設や農業用水、水土里ネットの役割等を紹介した。



◇ハンドブック（副読本）等を作成し、町内の小学校に配布

当別町の農業・農村の多面的機能や農業用水・農業水利施設の役割、水土里ネットの仕事などを紹介したハンドブック「当別町の水を知ろう」「水と歴史探訪」「田んぼの世界をのぞいてみよう」などを作成（当別地区地域用水対策協議会発行）し、町内の小学校等に配布している。

④先駆的な農業・農村振興活動

◇地域資源保全活動の積極的な推進 ※再掲

⑤環境・景観保全活動

◇用排水路沿いの花壇整備、短歌の掲示 ※再掲

◇農業用水等を活用した親水公園の整備推進

国等の事業を活用しながら、地域住民の憩いの場となる親水公園の整備を進めている。

⑥多様な広報等

◇ホームページによる情報発信

◇農業用水、水土里ネット等のPRパンフの作成・配布

◇町内全戸にアンケート調査を実施

地域用水の啓発活動が地域住民にどれだけ浸透し、どのような効果が發揮されてきたか、また、地域資源の保全活動に向けての参加意向などを調査するため、町内の新聞に折り込んでアンケート調査を実施。5400枚を配布し、200件の回答を得た。



◇ハンドブック（副読本）等を作成し、町内の小学校に配布 ※再掲

2. 水土里ネット由仁（由仁土地改良区）

(1) 水土里ネットの概要

- ②地区面積 3,669ha
- ③組合員数 415戸
- ④関係市町村 由仁町、栗山町、千歳市
- ①役職員等数 総代40名、役員11名、職員10名

(2) 21創造運動の概要と受賞ポイント

地域住民や組合員等の積極的な参加を呼びかけて、用水路沿いへのハーブの植栽や花壇の造成など、環境・景観保全活動に積極的に取り組んでいるほか、国営農地再編事業の実施を契機にワークショップを開催し、地域農業・農村の活性化に向けて広く意見交換を行っている。

また、学校教育との連携では、平成16年から由仁町内3つの小学校の総合学習「たらいで米づくり」に全面的に協力している。米ができるまでの一連の過程を子どもたちに学んでもらおうと、水土里ネットが学校へ学習メニューを提案して始まったもので、田植えから収穫まで、随時水土里ネット役職員が学校に出向き、米づくりを指導している。

特に、副読本も作成し、出前授業で農地・農業用水の大切さを紹介するなど、学校との積極的な交流を通じて子どもたちの農業・農村に対する理解促進を図っている。

このように、地域農業・農村を良好な状態で次の世代へ継承しようという理念のもとで、小学校での子どもたちとの交流を中心に、地域住民、行政など多様かつ有機的な連携のもとで、外部にも開かれた継続的、持続的な運動が展開されている。

(3) 21創造運動の主な取組

①都市と農村の交流

◇地域イベントへの参加

町等が主催する地域のイベントに積極的に参加し、パネルで農業用水の多面的機能、農地・農業用水等の資源保全の重要性などを紹介するほか、パンフレットなどを配布し、水土里ネットの役割などをPRしている。



②関係団体・地域住民等との連携

◇用水路沿い等のハーブ等の植栽

地域住民や組合員等の協力を得て用水路沿いにハーブ、スズランを植栽しているほか、町内会と連携して水土里ネットの資材置場に花壇を整備するなど、景観保全活動に取り組んでいる。



◇ワークショップを開催し、地域活性化等について意見交換

国営農地再編事業の実施を契機に、札幌開発建設部と連携して、組合員はもとより子ども育成会、老人クラブ、JA女性部、商工会、学生など多様な参画を得てワークショップを開催している。



③学校教育との連携

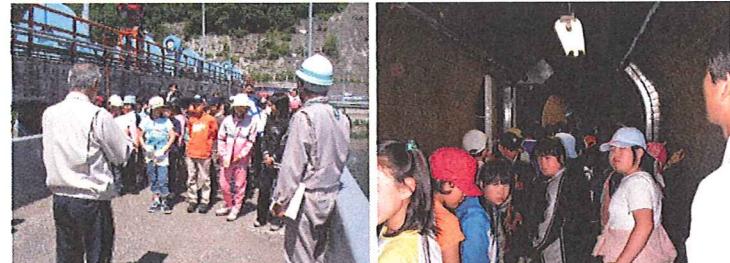
◇小学校の総合学習「たらいで米づくり」に協力

田んぼづくりから田植え、水管理、除草、収穫といった米ができるまでの一連の過程を学んでもらおうと、水土里ネットが町内の小学校にプラスチックケースを用いた「たらいで米づくり」を提案。平成16年度から毎年継続して、町内の3校(由仁小、三川小、川端小)の総合学習のカリキュラムに組まれ、水土里ネットが全面的に支援・協力をしている。



◇農業水利施設見学会の実施

米づくりの総合学習を行っている町内3校の子どもたちに、田んぼの水はどこから流れてくるのかを知ってもらおうと、社会科見学で大夕張ダムや川端ダム、用水路などに案内。施設や農業用水、水土里ネットの役割等を紹介している。



◇小学校の社会科授業で出前授業を実施

水土里ネットの理事長が小学校の教壇に立ち、社会科授業で農業・農村の多面的機能、農地・農業用水の大切さ、日本の食料自給率の現状などを紹介している。



④先駆的な農業・農村振興活動

◇ワークショップを開催し、地域活性化等について意見交換 ※再掲

⑤環境・景観保全活動

◇用水路沿い等のハーブ等の植栽 ※再掲

⑥多様な広報等

◇町の広報誌に、水土里ネットの活動を随時掲載

水土里ネットが全面的に支援している小学校の総合学習の取り組みなどを、隨時、町にも情報提供し、広報誌で紹介されている。

◇農業用水、水土里ネット等のPRパンフの作成・配布

◇副読本「お米ができるまで」を作成

稲作りに必要な作業や、稲の生長などをまとめたマニュアル「お米ができるまで」を作成し、小学校の総合学習や出前授業などに活用している。



3. 水土里ネット深川（深川土地改良区）

（1）水土里ネットの概要

- ②地区面積 4,582ha
- ③組合員数 501戸
- ④関係市町村 深川市、妹背牛町、秩父別町
- ①役職員等数 総代37名、役員11名、職員13名

（2）21創造運動の概要と受賞ポイント

一般消費者に「食」と「農」に対する理解を深めてもらおうと、JAなどと連携して毎年、農業体験会を開催し、都市と農村との交流に積極的に取り組んでいるほか、国営農地再編事業の実施を契機にワークショップを開催し、地域農業・農村の活性化に向けて広く意見交換を行っている。

地域資源の保全に向けては、水土里ネットが中心となり、組合員や地域住民など多様な参画を呼びかけてモデル的な活動組織を立ち上げ、効果の高い保全活動の取り組みを検証している。

また、環境景観保全の取組としては、地域住民や組合員等の連携のもとで用水沿いへのハーブの植栽や花壇づくり、さらには、用水路の暗渠化に伴う市街地の用地を利用して、職員手作りでせせらぎを造成するなど、町並み景観づくりにも貢献している。

学校教育との連携では、施設見学会の開催や当水土里ネットが管理している農業歴史資料館に案内するほか、出前授業も行うなど、小学校との積極的な交流を通じて子どもたちの農業・農村に対する理解促進を図っている。

このように、地域に要請に対応した農地・農業用水等を地域資源の維持保全を積極的に担つていける組織を目指し、組合員はもとより地域住民や学校、行政、JAなど多様かつ有機的な連携のもとで、外部にも開かれた継続的、持続的な運動が展開されている。

（3）21創造運動の主な取組

①都市と農村の交流

◇「コープさっぽろ」の組合員を招き、農業体験を開催

一般の消費者に田植えや草取りなどの農業体験を通じて農業に対する理解を深めてもらおうと、JA北いぶきと当水土里ネットが連携し、「コープさっぽろ」の組合員を招いて農業体験会を開催している。



親子連れ約100名が参加して、5月21日に田植え体験、7月16日に草取り体験と生育観察、田んぼの生き物観察、ハーブの植栽、9月17日に稻刈り体験を行い、水土里ネットでは、田んぼの水はどこから流れてくるのか、農業水利施設の役割、地域農業の開発の歴史などを紹介している。

◇地域イベントへの参加

市やJA、水土里ネットなどが共催でイベント「スローフードフェスタ」を開催し、パネルで農業用水の多面的機能、農地・農業用水等の資源保全の重要性などを紹介するほか、パンフレット、ティッシュなどを配布し、水土里ネットの役割などをPRしている。

②関係団体・地域住民等との連携

◇ワークショップを開催し、地域活性化等について意見交換

国営農地再編事業の実施を契機に、札幌開発建設部と連携して、組合員はもとより高校生や主婦、JA青年部など多様な参画を得てワークショップを開催している。

平成16年度からの取組で、今後地域がどうあるべきかなどを話し合っている。



◇地域資源保全活動の積極的な推進

農地・農業用水等の地域資源の保全に向けて、水土里ネットが中心となり、農業者や地域住民など多様な参画を呼びかけてモデル的な活動組織を立ち上げ、効果の高い保全活動の取り組みを検証している。



◇用水路敷地に花壇づくり



市街地を通る水路を埋設した用地を利用して、組合員のほか自治会など地域住民の協力を得て花壇づくりを行っている。



◇用水路沿い等のハーブ植栽

水田の害虫カムシ防除や、景観美化の一環として、組合員や地域住民等の協力を得て、用水路敷地等にハーブを植栽している。

③学校教育との連携

◇小学校の社会科授業に協力

深川市や滝川市内の小学校の社会科授業に協力。子どもたちを頭首工や用水路等に案内し、農業水利施設の役割や農地・農業用水等の資源保全の重要性などを紹介している。



また、水土里ネットの職員が学校に出向き、

地域農業や開拓の歴史などについて出前授業を行っている。

④先駆的な農業・農村振興活動

◇地域資源保全活動の積極的な推進 ※再掲

◇ワークショップを開催し、地域活性化等について意見交換 ※再掲

⑤環境・景観保全活動

◇用水路敷地の遊歩道、公園等の整備推進

用水路の暗渠化に伴う用地を利用して、水土里ネット関係者が手作りで、深川市立一巳小学校周辺に浅い池やせせらぎを造成し、ハーブを植えるなど町並み景観づくりに取り組んでいる。



また、国等の事業を活用しながら、地域住民の憩いの場となる遊歩道や公園等の整備を進めている。

◇用水路沿い等のハーブ植栽 ※再掲

◇用水路敷地に花壇づくり ※再掲



⑥多様な広報等

◇ホームページによる情報発信

◇歴史的農業水利施設の伝承・保存

深川市内の水源地公園には、大正2年に施工された農業用施設の隧道、用水路の土留石垣、石積みレンガ造りの調節水門等を記念碑として建立・保存し、先人の苦労を後世に伝えている。

◇歴史的資料、農具等の保存・展示

農業歴史資料館を整備し、歴史的資料や農具、開拓当時の写真をパネル(50枚)にして掲示するなど、地域農業開拓の歴史の伝承に取り組んでおり、小学校の社会科授業などにも活用している。

◇農業用水、水土里ネット等のPRパンフの作成・配布

◇子ども絵画展の作品募集

4. 水土里ネットてしおがわ（てしおがわ土地改良区）

（1）水土里ネットの概要

- ②地区面積 18, 430ha
- ③組合員数 2, 194戸
- ④関係市町村 名寄市、士別市、剣淵町、和寒町
- ①役職員等数 総代80名、役員26名、職員45名

（2）21創造運動の概要と受賞ポイント

イベント等に積極的に参画し、地域農業や水土里ネットの役割などを積極的にPRしているほか、地域住民等の参加を募っての農業水利施設見学会の開催や、用水路敷地を一般市民の家庭菜園として開放するなど、都市と農村、地域住民等との積極的な交流を通じて、農業・農村の多面的機能、農地・農業用水の維持保全の重要性などの理解促進を図っている。

学校教育との連携では、小学校の総合学習「田んぼの学校」や「自然観察会」に協力しており、特に、自然観察会は、上川支庁と連携して学校へ学習メニューを提案して始まったもので、積極的に小学校との交流活動を展開している。

また、環境・景観保全活動では、用水路の暗渠化に伴う市街地の用地を利用して地域住民の憩いの場となる遊歩道や親水公園の整備を推進し、町並み景観づくりにも貢献している。

このように、農業・農村の多面的機能や地域資源の保全の重要性について地域住民等の理解の醸成に向け、組合員はもとより地域住民、学校、行政など多様かつ有機的な連携のもとで、外部にも開かれた継続的、持続的な運動が展開されている。

（3）21創造運動の主な取組

①都市と農村の交流

◇地域イベントへの参加

関係機関や市町などが主催するイベントに積極的に参加し、パネルで農業用水の多面的機能、農地・農業用水等の資源保全の重要性などを紹介するほか、パンフレット、ティッシュなどを配布し、水土里ネットの役割などをPRしている。（平成17年度は、JR札幌駅南口広場で2回、士別市内で1回）

士別市内（上段）と、JR札幌駅南口広場のイベント（下段）



◇農業水利施設見学会の開催

町内会など地域住民等の参加を募って農業水利施設見学会を開催。ダムや頭首工などに案内し、施設や農業用水、水土里ネットの役割などを紹介している。



平成17年度は、8月11日、12日の2日間で、延べ300名の参加を得ている。

②関係団体・地域住民等との連携

◇用水路敷地を地域住民に開放



用水路のパイプライン化

による敷地の有効活用として、名寄市と連携し、ミニ公園と併せて50区画の市民農園を整備し、地域住民が家庭菜園として利用している。草刈り、清掃は地域住民にお願いすることにより、水土里ネットの維持管理の軽減にもつながっている。

③学校教育との連携

◇小学校の総合学習「田んぼの学校」に協力

士別市立士別小学校の田んぼの学校に年間を通して協力し、農業体験を通じて、農地や農業用水等の重要性と、これらを管理している水土里ネットの役割等を紹介している。



平成17年度は、4月20日に開校式とハウスでの苗作り体験、5月17日に代播き見学、5月24日に田植え体験、7月19日に生育観察と田んぼの生き物調査、9月20日に稲刈り体験、10月7日に脱穀体験、1月18日に収穫祭を実施。

◇小中学校の社会科研究に協力

社会科研究の一環で水土里ネットに訪れた士別市立下多寄小学校と名寄市立風連中学校の児童、生徒に対し、地域農業の歴史や農地・農業用水、水土里ネットの役割等を紹介している。



◇小学校の自然観察会に協力

自然の大切さと環境への関心を高めてもらおうと、上川支庁と連携して士別市立中多寄小学校に自然観察会のメニューを提案。同校の課外授業として、8月30日に実施した。



◇地域の小学校に下敷きを配布

地域の小学校に、農業用水や水土里ネットの役割などを紹介した下敷き3300枚を配布した。

④先駆的な農業・農村振興活動

◇頭首工の多面的活用

士別市の冬トピア事業「士別融雪溝」に協力し、冬期間、水土里ネットが管理する頭首工から融雪水を取水している。

⑤環境・景観保全活動

◇用水路敷地の遊歩道、公園等の整備推進

地域住民の安全対策として進められている用水路の暗渠化に伴う用地を利用し、国等の事業を活用しながら地域住民の憩いの場となる遊歩道や公園の整備を進めている。



⑥多様な広報等

◇農業用水、水土里ネット等のPRパンフの作成・配布

◇全土連発行の副読本を町内小学校に配布

農業・農村の多面的機能や農業用水、水土里ネットの役割などを、小学生向けに分かりやすく紹介した副読本「こちら農村探偵クラブ」1000部を町内の小学校へ配布した。